

大草谷津田いきものの里 自然観察会

6月の草花

松本美千代（千葉市）

日 時：2010年6月6日（日）10時30分～12時 天候：晴

参加者：子ども9名 大人18名 計27名

担当指導員：芳我めぐみ 松本美千代

天気良く日差しが強い。参加者たちは自然に詰め所の建物の影に集まり、注意事項を聞くというかたちになった。

～広場入口～

- ・ ヒメコウゾの枝のあちこちに、ジョロウグモ(子グモ)が小さいけれど親と同じような複雑な網を張っているのを観察。[21年12月のジョロウグモの♀と卵のう、22年6月2日孵化した子グモのまどい(集まり)]の写真を見てもらう。
- ・ ドクダミの花の観察。白い花びらに見えるものは総苞というもので中心部が花の集まりで、めしべ・おしべがあるが花びらはないと説明する。

～涼しい杉林の中～

- ・ フタリシズカの花の観察。名前の由来と花の構造を用意してきた絵で説明する。3本でも5本でもフタリシズカ！！



～“めじろんば”を出た湿地～

- ・ オヤブジラムの実(くつつき虫)の鉤状のとげをルーペで観察する。
- ・ ハルジオンの花の上、ホソヒラタアブが来ていた。幼虫はアブラムシを食べると説明。

～斜面林～

- ・ エゴノキ・コナラ・シラカシでオトシブミの揺籃(ゆりかご)を発見。用意してきた大草のゴマダラオトシブミがコナラの葉で“おとしぶみ”を作る様子を写真で見せる。ちょうどヒメクロオトシブミの成虫を見つける。このオトシブミがコナラで作った小さな揺籃を観察する。枯れた葉っぱを食べて育つのかと心配している参加者もいた。
- ・ 向いの斜面林のヤマボウシの白い花が目立つが、いざそこへ行ってみると通り過ぎてしまう。近くに寄り、白い花弁に見えるのは苞で、真中の球状のものが本当の花であることを確認する。ガマズミもヤマボウシの花も花粉を運んでもらうため、離着陸のへたな甲虫のために適した形になっていると話す。

～水辺～

- ・ 子ども達に人気のある自噴井にさわってみたり(はまったり！？)する子も。常連の捕虫網を持った子どもは、シオヤトンボ・ニホンカワトンボ等、次々捕まえて翅を上手にもち、皆に見せてくれる。たくさんのおタマジヤクシ、アメンボ、ヒメモノアラガイ、シオカラトンボの♂♀、ヒメウラナミジャノメを見る。ホタルがいたと持ってきて見せてくれた。ヒゲナガハナノミの♀だった。

～大草で一番の景色～

- ・ カラスも食べているという桑の実。大人も子供も皆で少しずつ味わう。
《ここから見る景色が一番！！》という場所で田植えが
終わった谷津田を眺め、観察会を終える。

